

# 日印水環境ワークショップへの参加

研究第一部  
総括主任研究員  
田嶋 淳



## 再利用のセミナーも同時開催

国土交通省、インド国都市開発省および国際協力機構インド事務所の主催により、2009年2月11日に「日印水環境ワークショップ」がインドのニューデリーで開催されました。このワークショップは、昨年6月にインド国にて開催された「第2回都市開発に関する日印交流会議」の結果を受けたものであり、その共同議長による結語で、一層の協力を行うことが宣言された水環境、特に下水道に関連した分野について意見交換を行うことを目的としています。

また、ワークショップの開催に合わせ、バンガロール上下水道局と国際協力機構インド事務所の主催により、インドのバンガロールにおいて、2月10日に再生水利用と我が国の膜処理技術および汚泥処理・利用技術をテーマとしたセミナーが開催されました。

ワークショップでは、日本側から国土交通省、日本下水道事業団、下水道機構、国際協力機構インド事務所および民間企業が参加し、日本の下水道政策および民間企業の持つ先進の下水道技術について紹介しました。インド側からは都市開発省、環境森林省等の幹部が参加し、インドの下水処理場の状況と河川水質などの状況報告が行われ、今後の具体的な技術協力等について意見交換が行われました。

また、セミナーには、インド側からバンガロール上下水道局の職員、関係コンサルタント等が参加しました。我が国の再生水利用や汚泥処理・利用技術等に関する紹介が行われ、下水道機構は、LOTUS技術について紹介を行いました。



## LOTUS技術に強い関心

ワークショップにおける意見交換の結果、日本側が紹介した下水道技術について、インド国内での適用可能性の検討を進めることとなりました。インド側は都市開発省内に検討グループを作り、これを国土交通省

がサポートとする形で、第3回都市開発日印交流会議の開催までに結論を得ることになりました。

下水道機構からのLOTUS技術の紹介に対し、インド側からはコストに関する具体的な質問がなされるとともに、技術資料の入手要望がある等、汚泥処理・利用技術のインド国内での適用可能性についてインド側の強い関心が伺えました。また、現地視察を通じて、下水道技術の普及状況や水環境の現況・課題等について、多くの知見を得ることができました。



日印水環境ワークショップ開催を知らせる看板



ワークショップ参加者